

＜子どもたちの生き生きとした笑顔のために、

力をあわせ、学童保育をより良いものにしていきましょう＞

福岡県学童保育連絡協議会 会長 吉岡美保

福岡県学童保育連絡協議会HPをご覧の皆様

新年明けましておめでとうございます。

一昨年末から始まった新型コロナウイルス感染症は一進一退を繰り返しながら、新たな株の市中感染が日本中、世界中を脅かし、感染防止しながらの生活は2年にも及んでいます。この間、子どもはもちろんのこと保護者、支援員は、共に力をあわせて、大変な緊張感と苦労の中感染対策を図りながら、放課後の“日常”を守り続けています。

そして、学童保育は、就労を始めとする家庭と保育を必要とする子どもたちの日々の生活を支え、社会機能を支えるための重要な事業としてなくてはならない事業であることが明らかになりました。

が、今なお学童保育の実態は自治体や学童保育現場によって実施条件、保育内容はさまざまであり、多くの課題（学童保育の大規模化、待機児童の増大、条件整備の遅れ、指導員の低賃金を含む厳しい労働環境、行政や地域の理解の不十分さ、予算の少なさなど）があります。そして、全国規模で営利を目的とする民間企業の参入が増加しています。これでは子どもの命と安全安心な生活の場を保障することや支援員の処遇の問題など学童保育の質の低下が懸念され、学童保育の制度が様々な脆弱さと課題を抱えていることが改めて見えてきました。

併せて、子どもを取り巻く社会状況の中で事件や事故、コロナ禍によるストレスや子どもの人権問題も起こり、子どもの最善の利益が保障されない事態が起きています。

設備運営基準は参酌化されましたが、「放課後児童クラブ運営指針」（以下、「運営指針」）を足がかりにして、国と地方自治体の責任で学童保育が量的にも質的にも拡充されるよう求めていくことと、困難な状況の改善・解決に向けた働きかけを進めていくことは私たちにとって重要な課題です。

福岡県連協は、1977年に『子どもたちに豊かな放課後生活を、そして働く親が安心して働くことができる学童保育を』との願いから発足し、以来活動を続けています。全国学童保育連絡協議会(全国連)や九州各県連協、学童保育に関わる関係機関、そして保護者・支援員の皆様と協力しあい、各種研修会開催や、県市町村との懇談を行い要望を伝え学童保育施策の拡充と量と質の向上に向けて活動してきました。

このコロナ禍の中、去年は“学びの場”をオンライン研修に変え保護者・支援員が学び合う機会を作り、出前研修も再開、クラブの赴きアドバイザーとしても活動しました。

今年もコロナ感染拡大防止対策を図りながら、皆様と手を取り合い協力しあい、子どもたちの生き生きとした笑顔の為に活動し、学び合いたいと思います。

2月20日は第39回福岡県学童保育研究集会をオンラインで開催します。たくさんの方々と交流しあい学び会えることを願います。ご参加お待ちしております。

皆様の今後のご活躍を願い、年頭の挨拶とさせていただきます。